

そこにはスタツフを必要とし、寺が子供の居場所づくりになるための大切な事業として、次の世代づくりに梅鶯仏壮も努力していきたいと思っています。

題材法話

去る5月2

7日に、龍谷

大学で、元プ

口野球選手衣

笠雄氏の講

演会があり、

その講演会の

前に衣笠氏と

昼食を取りながら談話する

機会を頂きました。

ご承知の通り衣笠氏は、

元広島東洋カープの主力選

手で、1987年に引退す

るまで2215試合連続出

場を果たし、同年、プロ野

球界からは王貞治氏に次い

で二人目となる国民栄誉賞

を受賞されました。

現役時代は、最優秀選手

賞や打点王など数々の賞を

受賞する名選手でありまし

たが、同時に死球を受け、

重傷を負いながらも、それ

をものともせず翌日の試合

には出場し、多くのファン

に感動を呼び起こさせ、体

の頑健さのみならず、見る

者の心を揺さぶる不屈の精

神力から、人々に「鉄人」

と呼ばれるようになってまし



た。

その衣笠氏の話はさすが

に含蓄があり、人間的魅

力にあふれるものでした。

そのお話の一部を紹介

します。

○少年「衣笠雄」

衣笠氏は幼い頃から野球

少年だと思いきや、まった

く違つて、小学生の最初の

頃は水泳選手にあらがれ、

次はスケートに魅せられ、

最後は町の道場で柔道に明

け暮れる毎日だったそうで

す。

そして野球を始めたのは

中学生からで、それも中学

校に柔道部がなかったから

だそうです。

けれど、水泳で身につけ

た基礎体力、スケートで得

たバランス感覚、そしてな

によりも柔道で学んだ精神

力と礼儀作法が、その後の

野球人生の大きな基礎にな

ったそうで、

小学生の頃に

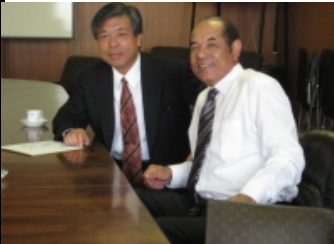
やりたいたく

をやらせてく

れた両親に感

謝している、

とのことでし



衣笠氏が連続出場記録を

達成した時のインタビュー

で「この体を授けてくれた

両親にまずは感謝したいで

す」という言葉が、今でも

印象に残っています。

は、衣笠氏の最大の

の理解者だったのです。

○今を大切に

とかく親というものは、

子供の気持ちよりも、親の

都合や感覚でものを言いが

ちです。

また反対に、昨今では子

供に無関心な親も多いと聞

きます。

そのどちらも、子供自身

が行き詰まり、時として不

幸な結果をもたらします。

親は子供の最大の理解者

であり、子供の目線で接す

ることが、なによりも大事

なのでしよう。

また、ついつい子供の将

来に期待を掛けすぎてしま

うのも親です。

「一期一会」と言う言葉

があります。これは、一つ

一つの瞬間は再び繰り返さ

れることがないため、その

時その時を大切にすべきで

あると説く言葉です。

やスケートや柔道に取り組

んだのは、けつして野球選

手になるためではなかった

のです。結果として一生

懸命に取り組んだことが将

来に生かされたのです。

○人に支えられた人生

あれだけの記録を達成し

た衣笠氏にも、多くの困難

があつたそうですが、どん

な困難に対しても、それを

解決するための方法論を考

え、それにむかつて努力を

積み重ねてきたそうです。

けれど最後に仰ったこと

は、その努力が出来たこと

も、そして問題を解決でき

たことも、考えてみれば多

くの皆様に支えられてきた

お陰であります、とのこと

でした。

衣笠氏の人生観や、一言

一言の言葉に、なにか仏教

的な考え方に通じるものを

感じたのは、衣笠氏の出身

高校が、龍谷大学と同じ西

本願寺系の平安高校だから

なのかなと思ひました。

了